

環境教育掲示用教材 解説書

東京都教育委員会では「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」の中で、体験的な活動等を取り入れた環境学習を通じて、子供たちが自主的・積極的に環境保全活動に取り組むことが重要であると示しています。

環境教育掲示用教材は、児童・生徒に地球環境保全に関する必要な知識を与えるとともに、3Rをはじめとする環境に配慮した行動の大切さを理解させ、その実践を促すことを目的として作成した教材です。

本解説書では、学校の授業等で活用できるよう、環境教育掲示用教材を活用した活用例等を紹介합니다。

環境教育掲示用教材の特徴

特徴 1

地球環境保全に関する課題を各回のテーマに設定し、児童・生徒が地球環境保全に高い関心をもち、環境に配慮した行動を促す内容を掲載します。

特徴 2

発達段階に応じた内容となるよう、小学校低学年版、小学校中学年版、小学校高学年版、中学校・高等学校版の4種類を作成します。

特徴 3

都内公立学校の全ての学級に年4回配布し、教室等に掲示することを通して、環境教育への取組を支援します。

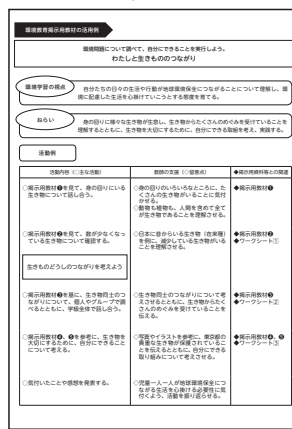
特徴 4

学校の授業等で活用できるよう、短時間の活用例等を紹介した解説書と児童・生徒用のワークシートを添付します。

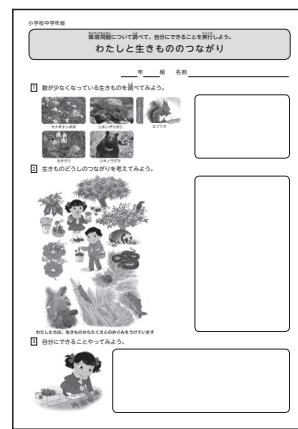
環境教育掲示用教材



解説書



ワークシート



環境問題について調べて、自分にできることを実行しよう。
わたしと生きものつながり

環境学習の視点

自分たちの日々の生活や行動が地球環境保全につながることに理解し、環境に配慮した生活を心掛けていこうとする態度を育てる。

ねらい

身の回りに様々な生き物が生息し、生き物からたくさんのめぐみを受けていることを理解するとともに、生き物を大切にするために、自分にできる取組を考え、実践する。

活動例

活動内容（○主な活動）	教師の支援（◇留意点）	◆掲示用資料等との関連
<p>○掲示用教材①を見て、身の回りにいる生き物について話し合う。</p> <p>○掲示用教材②を見て、数が少なくなっている生き物について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生きものどうしのつながりを考えよう</p> </div> <p>○掲示用教材③を基に、生き物同士のつながりについて、個人やグループで調べるとともに、学級全体で話し合う。</p> <p>○掲示用教材④、⑤を参考に、生き物を大切にするために、自分にできることについて考える。</p> <p>○気付いたことや感想を発表する。</p>	<p>◇身の回りのいろいろなところに、たくさんの生き物があることに気付かせる。</p> <p>◇動物も植物も、人間を含めて全てが生き物であることを理解させる。</p> <p>◇日本に昔からいる生き物（在来種）を例に、減少している生き物があることを理解させる。</p>	<p>◆掲示用教材①</p> <p>◆掲示用教材②</p> <p>◆ワークシート①</p>
	<p>◇生き物同士のつながりについて考えさせるとともに、生き物からたくさんのめぐみを受けていることを伝える。</p> <p>◇写真やイラストを参考に、東京都の貴重な生き物が保護されていることを伝えとともに、自分にできる取り組みについて考えさせる。</p> <p>◇児童一人一人が地球環境保全につながる生活を心掛ける必要性に気付くよう、活動を振り返らせる。</p>	<p>◆掲示用教材③</p> <p>◆ワークシート②</p> <p>◆掲示用教材④、⑤</p> <p>◆ワークシート③</p>



① 地球上にいる生き物の数

(出典：環境白書 平成 29 年)

昆虫、鳥、魚、いろいろな植物など地球上には約 3,000 万種類の生き物がいるといわれています。人間も含めた全ての生き物が関わり合って生きていますが、今、世界では多くの生き物が絶滅の危機にさらされています。

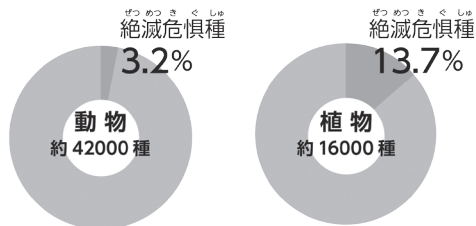
日本でも、ライチョウ・ニホンウナギ・ジュゴン・ツシマヤマメネコ・ヤンバルクイナなど、多くの生き物が絶滅の危機にあります。

② 絶滅の危機にさらされている日本の野生動植物 (出典：環境省「絶滅危惧種レッドリスト2017」)

日本に生息する絶滅のおそれのある野生動植物をレッドリストとして環境省がまとめています。

日本に生息する野生動植物について、2015 年と比べ 2017 年には絶滅危惧種が 38 種増加し、海洋生物については 56 種が絶滅危惧種として掲載されています。

海洋生物を合わせたレッドリストでは、日本の絶滅危惧種は合計で 3,690 種になっています。



絶滅の危機にさらされている日本の野生動植物の割合

◆ 東京都では、保護上重要な野生生物種の解説書「東京レッドデータブック」を公表し、絶滅の危険性が高い動植物の生態や現状等について解説しています。

東京レッドデータブック
<http://tokyo-rdb.jp/index.php>

③ 生き物同士のつながり

- ・植物が枯れる、動物が死ぬ→土の中の微生物に分解される→養分になって植物が育つ→育った野菜や木の実、くだものを人間や昆虫などの草食動物が食べる
- ・草を食べるバッタ→バッタを食べるカマキリ→カマキリを食べる野鳥

人間も含め、それぞれに違いのあるたくさんの種類の生き物全ては、互いに関わり合って生きています (生物多様性)。私たち人間も、そこから食べ物や豊かな自然などのいろいろなめぐみを得て暮らしています。

④ 東京都の取組

保全地域は、地域の特徴により 5 つの種類に分類して、2016 年 3 月現在、50 地域を指定しています。

- ・自然環境保全地域 (1 地域)
- ・森林環境保全地域 (1 地域)
- ・里山保全地域 (4 地域)
- ・歴史環境保全地域 (6 地域)
- ・緑地保全地域 (38 地域)

◆ 小笠原諸島の自然と希少な生きもの

小笠原諸島は、大陸とつながったことがない島です。そのため、ほかの地域にはない生き物や生き物同士のつながりが見られます。独自の進化を遂げてきた固有生物の宝庫と言われています。

⑤ 自分にできることのヒント

- ・自然をよごさないように、ごみはもってかえろう。
- ・動物が食べてしまわないように、ごみのポイすてはやめよう。
- ・チョウがやってくるように草花を植えよう。
- ・大きな公園や自然が残っている場所で生き物の観察を試みよう。
- ・イヌやネコなどのペットを飼うときは、最期まで責任をもって飼おう。

東京都の主な環境学習施設

区市町村名	施設名称	所在地	問合せ先
八王子市	八王子市環境学習室（エコひろば）	八王子市北野町 596-3 あったかホール 1 階	042-656-3054
	八王子市地球温暖化防止活動推進センター「クールセンター八王子」	八王子市北野町 596-3 八王子市北野余熱利用センター 2 階	042-656-3103
立川市	国営昭和記念公園	立川市緑町 3173	042-528-1751
武蔵野市	井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山 1-17-6	0422-46-1100
三鷹市	野川公園	三鷹市大沢二・三丁目	0422-31-6457
青梅市	青梅市リサイクルセンター	青梅市新町 6-9-1	0428-31-0540
府中市	府中市環境保全活動センター	府中市寿町 1-5 府中駅北第 2 庁舎 7 階	042-335-4410
	府中市リサイクルプラザ	府中市四谷 6-58	042-365-0502
昭島市	環境コミュニケーションセンター	昭島市美堀町 3-8-1	042-546-5300
調布市	調布市多摩川自然情報館	調布市染地 3-8-26	042-486-3174
	野草園	調布市深大寺南町 1-25 深大寺自然広場内	042-498-1464
町田市	リサイクル広場まちだ	町田市下小山田町 3267-20	042-797-0530
小金井市	小金井市環境学習館	小金井市貫井南町 3-2-16	042-381-5006
小平市	こもれびの足湯	小平市中島町 3-5	042-341-4345
	ふれあい下水道館	小平市上水本町 1-25-31	042-326-7411
	リサイクルセンター	小平市小川東町 5-19-10	042-346-9535
	リプレこだいら	小平市小川東町 5-19-10	042-343-7377
日野市	環境情報センター（かわせみ館）	日野市日野本町 1-6-3	042-581-1164
東村山市	東村山中央公園	東村山市富士見町五丁目ほか	042-392-7322
国分寺市	環境情報ライブラリー	国分寺市本町 4-1-9 本町クリスタルビル 4 階	042-328-2192
国立市	北多摩二号水再生センター	国立市泉 1-24-32	042-572-7711
福生市	リサイクルセンター・リサイクルプラザ	福生市熊川 1566-4	042-552-1621
	川の志民館	福生市南田園 3-64-2（多摩川中央公園隣）	042-551-1718
狛江市	狛江市ビン・缶リサイクルセンター	狛江市岩戸北 1-1-11	03-3488-5300
東大和市	東大和公園	東大和市湖畔三丁目ほか	042-393-0154
清瀬市	清瀬水再生センター	清瀬市下宿 3-1375	042-494-1451
東久留米市	六仙公園	東久留米市中央町三丁目	0422-31-6457
武蔵村山市	中藤公園	武蔵村山市中央四・五丁目	042-531-2325
多摩市	多摩市立グリーンライブセンター	多摩市落合 2-35（多摩中央公園内）	042-375-8716
	エコプラザ多摩（資源化センター）	多摩市諏訪 6-3-2	042-338-6836
稲城市	環境学習センター	稲城市東長沼 3101-4	042-378-2111
羽村市	羽村市動物公園	羽村市羽 4122	042-555-2581
あきる野市	小宮ふるさと自然体験学校	あきる野市乙津 1984	042-596-0414
西東京市	エコプラザ西東京	西東京市泉町 3-12-35	042-421-8585

■町村の環境学習施設については第 4 回で御紹介します。

編集・発行：東京都教育庁指導部義務教育指導課